

松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



広報

# まつざき

2018  
(平成30年)

# 12

No.655



秋まつり (11/2)

伊那下神社式三番叟

# 松崎町功労者表彰

11月21日、環境改善センター文化ホールで、松崎町功労者表彰式を行いました。

この表彰は、松崎町表彰条例に基づき、町の政治や福祉等、各分野において、町の発展に寄与された方の功績をたたえるものです。受章された方々は、次の通りです。

## 有功表彰

齋藤 文彦さん  
（元 松崎町長）

多年にわたり、町長として町政の発展に尽力し、地方自治の振興に貢献。

## 善行表彰

模範行為

おたまじやくしの会

多年にわたり、福祉施設等での音楽ボランティア活動に尽力し、音楽を通しての健康づくりに貢献。

## 感謝状

歴史的建造物の保存に貢献

中村 一夫さん

多年にわたり、町の風情を代表するなまこ壁の修繕等に尽力し、歴史的建造物の保存に貢献。

ジオパークの普及に貢献

渡辺 攻さん

多年にわたり、ジオガイドとして、町の魅力発信、ジオパークを通じて地域の活性化に尽力し、伊豆半島ジオパークの普及に貢献。

ジオパークの普及に貢献

佐野 勇人さん

多年にわたり、ジオガイドとして、町の魅力発信、一般向けジオツアーの活性化に尽力し、伊豆半島ジオパークの普及に貢献。

【問合せ】

企画観光課（42）3964

## 栄えある叙勲

瑞宝単光章（消防功労）

後藤育正さん（八木山）

前消防団副団長の後藤育正さん（66歳）が、平成30年秋の叙勲「瑞宝単光章」を受章し、11月5日、静岡県知事より勲章が手渡されました。11月12日には、ニッショーホール（東京都）において国の伝達式、皇居において拝謁が行われました。

後藤育正さんは36年にわたる、消防団活動への功労・功績を認められ、今回の叙勲の受章となりました。



▶瑞宝単光章を受章した後藤さん

【問合せ】

総務課（42）3963

## 郵便局との協定

10月31日、町は日本郵便株式会社と、「郵便局のみまもりサービス」を、ふるさと納税の返礼品とすることに関する協定を結びました。

町内に住む両親や兄弟等の生活・健康状況等を、故郷を離れて生活している寄付者に代わり、郵便局社員が、毎月1回の訪問にて行う30分程度の会話を通じて確認し、訪問結果は写真を添付したメールで寄付者へと報告されるという内容となっています。



▲締結式の様子

【問合せ】

企画観光課（42）3964



▲平成30年度松崎町功労者表彰式にて

町の財政状況

# 平成30年度 一般会計 上期執行状況

歳入

平成30年度の4月1日から9月30日までの一般会計の執行状況をお知らせします。

歳出

38億 311万 9千円 上段：予算額  
18億9,393万 1千円 下段：収入済額( )：収入率(49.8%)

38億 311万 9千円 上段：予算額  
14億3,083万 3千円 下段：支出済額( )：支出率(37.6%)

地方交付税	15億 684万 1千円 10億7,990万 1千円 ( 71.7%)
町 税	6億3,353万 1千円 3億5,886万 6千円 ( 56.6%)
国庫支出金	2億3,376万 2千円 8,407万 9千円 ( 36.0%)
県 支 出 金	2億7,013万 9千円 931万 8千円 ( 3.4%)
町 債	3億2,710万円 0円 ( 0%)
諸 収 入	1億3,220万 1千円 4,502万 9千円 ( 34.1%)
地方消費税 交 付 金	1億1,800万円 7,249万 2千円 ( 61.4%)
繰 越 金	1億円 1億7,337万 8千円 (173.4%)
使用料及び 手 数 料	6,331万 5千円 2,214万円 ( 35.0%)
繰越明許費	4,500万円 1,670万 1千円 ( 37.1%)
そ の 他	3億7,323万円 3,202万 7千円 ( 8.6%)

民 生 費	8億3,393万 7千円 3億6,950万 6千円 ( 44.3%)
総 務 費	8億3,858万 4千円 3億3,751万 3千円 ( 40.2%)
衛 生 費	4億3,059万 4千円 1億5,374万 4千円 ( 35.7%)
公 債 費	3億1,217万 2千円 1億3,456万 4千円 ( 43.1%)
土 木 費	2億5,955万円 4,311万 9千円 ( 16.6%)
消 防 費	2億4,456万 5千円 9,655万 7千円 ( 39.5%)
教 育 費	2億4,389万 9千円 1億 948万 1千円 ( 44.9%)
農林水産業費	2億3,994万 2千円 5,863万 7千円 ( 24.4%)
商 工 費	2億8,130万 7千円 8,323万 2千円 ( 29.6%)
繰越明許費	4,500万円 1,952万 5千円 ( 43.4%)
そ の 他	7,356万 9千円 2,495万 5千円 ( 33.9%)

町民1人あたりでは

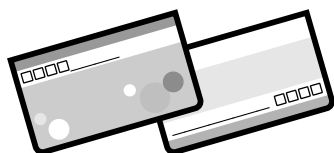
平成30年9月30日までに  
納めていただいた税金(町税) 約5万3千円

平成30年9月30日までに  
使ったお金 約21万3千円

## 9月30日現在の基金(町の貯金)と町債(町の借金)の状況

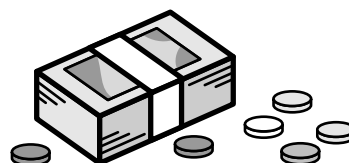
●町の貯金(財政調整基金等、15基金)

20億6,442万円  
町民1人あたり約30万7千円



●町の借金

31億1,643万 5千円  
町民1人あたり約46万 4千円



※1人当たりの値は、9月30日現在の人口6,715人で計算しています。

【問合せ】総務課 (42)3963



「税を考える週間」  
税に関する作品  
審査結果

毎年11月11日から17日までの1週間は、「税を考える週間」です。

伊豆下田納税貯蓄組合連合会では、この週間に合わせ、今年も小学生・中学生を対象に「税に関する作品（ポスター、習字、作文）」を募集しました。

今年、賀茂地区の小学校・中学校から習字の部に396点、ポスターの部に129点、作文の部に451点の応募がありました。松崎町では、松崎小学校から習字の部に39点の応募があり、審査の結果、下記のとおり入賞者が決定しました。

【問合せ】  
窓口税務課（42）3968

入賞作品

習字



松崎町長賞  
稲葉 友香さん（松小6年）



松崎町教育長賞  
一瀬 結翔さん（松小6年）



伊豆下田納税貯蓄協議会長賞松崎町  
関 夢波さん（松小6年）



伊豆下田納税貯蓄組合連合会  
佳作松崎町  
鈴木 敬明さん（松小6年）



振興公社管理施設上半期実績

平成30年度上半期振興公社管理施設の実績は、重要文化財岩科学校以外の入館施設では、前年度に比べ、入館者が減少し、厳しい結果となりました。

伊豆まつぎ荘は、7月から宿泊料金500円、夕食食事料300円の値上げを実施したほか、朝食バイキングのシルバー料金500円を廃止し、町民は800円で統一する等の料金改定を行いました。

宿泊利用者は前年に比べ、1200人減少、日帰り入

浴や休憩（会食等）も前年に比べ減少しております。

また、7月から9月にかけては、台風の影響によるキャンセルが相次ぎ、大きく落ち込む原因にもなりました。

今後、多くの皆さまに伊豆まつぎ荘を利用していただけるよう、営業宣伝活動を強化していくとともに、利用される方に満足いただける対応を心掛けてまいります。

【問合せ】

企画観光課（42）3964

平成30年度 上半期 施設利用状況

施設名	本年度(人)	前年度(人)	比較(人)	割合(%)	
伊豆まつぎ荘	宿泊	11,002	12,202	△1,200	90.2%
	入浴	2,981	2,984	△3	99.9%
	休憩	2,769	3,203	△434	86.5%
	小計	16,752	18,389	△1,637	91.1%
伊豆の長八美術館	入館	11,863	12,006	△143	98.8%
重文岩科学校	入館	7,739	7,084	655	109.2%
明治商家邸	入館	5,772	5,974	△202	96.6%
民芸館	利用	2,989	3,116	△127	95.9%
道の駅花の苑	利用	12,071	13,290	△1,219	90.8%
	入浴	12,546	13,762	△1,216	91.2%

# 松崎高校広報く西豆と共にく(連携型中高一貫教育)

生徒会長あいさつ

1年 菊地 直央

(松崎中学校出身)



このたび、松崎高校の生徒会長になりました、1年の菊地直央です。

私は、地域と高校とが連携し、共に活動できる環境を作っていきたいと思えます。地元にある高校の生徒として、地域とどういった活動をしていけるのかを、地域の皆さんのご意見を伺いながら考えていきたいと思えます。

地域活動の場の具体的な例として挙げられるのが、この地域の秋祭りです。人

口の減少により、これまで受け継がれてきた伝統文化の存続が危うくなっているという現状がある中で、私たちの若い力が生きる場面が、きつとあるはずですが、

このような高校生の積極的な活動は、地域の活性化につながると思います。身近なことから始めて、活動をいろいろと広げていきたいです。

今までにない活動にも挑戦していきたいと思えますので、皆さまのご意見、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 新人戦東海大会に向けて 陸上競技部

①種目

②県大会成績

③東海大会への抱負

2年 藤井 葵

(賀茂中学校出身・写真中央)

①女子800m

②5位

③少しの間、けがで走ることができませんでしたが、

走れるようになった今、その間の悔しかった気持ちを忘れず、後悔のない走りをしてきます。

1年 菊地 直央

(松崎中学校出身・写真左)

①男子砲丸投げ

②5位

③ベストを出せるよう、自分らしく楽しんで戦ってきます。強い選手の動きを見て、たくさんのかを学んでいきます。

1年 山本 玲音

(松崎中学校出身・写真右)

①男子砲丸投げ

②6位

③中学3年生の時の記録は12m75cmでした。この大会では、12m75cm以上の記録を目標として頑張ります。



## 創立記念講演

演題：未来の親に伝えたいく乳幼児期に大切なことく

講師：小林 洋子先生

(元高校教諭)

10月1日に、長く県内の高校の教壇に立ち、多くの

生徒の指導にあたられた経験をお持ちの小林洋子先生を講師に迎え、創立記念講演を催しました。

講演の中で小林先生は、乳幼児期に子どもに愛情をかけることで思いやりや良心や理性が育まれること、乳幼児期の遊びの重要性等について、「未来の親」である生徒たちに分かりやすくお話しくださいました。



▲創立記念講演の様子

【問合せ】

松崎高校(42) 01331

# 松崎名産！「栄久ぼんかん」<sup>®</sup>をめぐる二つの物語

## 「三余農園と丸高農園の若手農業者の活躍」

松崎町は、静岡県内で2位のぼんかんの産地です。那賀区にある「三余農園」と、道部区にある「丸高農園」では、2人の若い園主が、特産品のぼんかんを守り、さらなる価値の向上に努めています。

### 農園について

#### 三余農園 5代目

土屋 人さんに聞く

三余農園は、明治36（1903）年、初代土屋準次氏から100年以上続いています。

現在は、年間40種類以上の柑橘類を栽培しています。土作り等から環境に優しい農業に取り組み、「伊豆松崎の旬を届ける柑橘農家になる」ために、それぞれの品種の最もおいしいタイミングで収穫し、提供することを心掛けています。

土屋さんは、1年の成果が分かる収穫のときが一番楽しいと言います。時には、お客さんの要望に合わせて、



▲三余農園 柑橘の詰め合わせ

好きな品種や色味等を詰め合わせて発送もしているそうです。お客さんが、みかんの箱を開ける時の楽しさや食べる時の喜びが増すように、日々工夫しています。

#### 丸高農園 4代目

高橋 幸村さんに聞く

丸高農園は、昭和12年（1937）年、初代高橋亘氏が創業しました。

現在は、ぼんかん3種の他、オレンジやレモン等を出荷し、林業も行っています。

4代目は、初代がしっかりと石垣を組んで作った農園と意思を引き継ぎ、地域の期待に応えようと励んでいます。受け継いだ当初は、耕作放棄地が多い状態でしたが、徐々に再整備し、き

れいになっていく姿にやりがいを感じているそうです。社員の協力を得て、「忠実・誠実に作物を届ける」とともに、最近は、販売時のポップやパンフレット等を工夫して、親しみやすい農園作りを取り組んでいます。



▲丸高農園 手作りのポップ

### 「栄久ぼんかん」<sup>®</sup>について

「栄久ぼんかん」は晩生種のため、旬は他のぼんかんより遅い1月中旬〜2月下旬頃ですが、その分甘みが強く香りが高いのが特徴です。現在は、町外ではほとんど作られていない、町内でも限られた農家しか栽培していない貴重なぼんかんです。



（右上）丸高農園初代高橋亘さん（右下）4代目 高橋幸村さん  
（左下）三余農園2代目 土屋栄久さん（左上）5代目 土屋人さん



作られなくなった理由として、規格外が多く見た目も荒い、接穂で生産者自身が苗作りから始めなければならず成長が遅い、新品種の台頭等の問題があります。



▲栄久ぼんかん

## 二つの物語

「栄久ぼんかん」は、三余農園2代目の土屋栄久さんが、昭和9年に穂木を譲り受け、広めたことが始まりです。2つの農園は当時から交流が始まり、研究熱心だった土屋栄久さんと、松崎の地形や気候が柑橘に向いていると考え、奨励活動を行っていた高橋巨さんが協力し、栄久ぼんかんの研究や栽培に力を注いできました。

時は流れて、現在、栄久ぼんかんの普及に努めた2人の曾孫たちが再び協力し合い、多くの人に栄久ぼん

かんの価値を知ってもらおうと一緒に取り組んでいます。2人の園主は偶然にも同時期に園を継いだものの、栄久ぼんかんがこの町に

かない特産品なのに住民にあまり知られておらず、忘れ去られたような存在になっていることに悔しい思いをしますと言います。土屋さんは、今年栄久ぼんかんの価値を高め、保護するために商標登録をしました。土屋さんは「自分だけがこの名

を使うのではなく栄久ぼんかんのブランドを共有するために使っていきたい」と言います。三余農園と丸高農園は、より多くの人に栄久ぼんかんに親しんでもらうため、平成30年1月に「松崎ブランド」認定を受けたほか、ポスター等の制作・販売促進を共同で取り組んでいます。

## 二人の思い

忘れ去られた栄久ぼんかんを、この2つの農園や現

在も栄久ぼんかんを生産している数少ない農家は、しっかりと継承し守ってきました。

今後は、「今一度、地元の皆さんに知ってもらい、話題の一つになって町の活性化につながる」と良い「土屋」。「農業で雇用の場を広げ、将来的に他業種との連携により町内にお金が落ちる仕組み作りをしたい」（高橋）との展望も話してくれました。

2人は、栄久ぼんかんを大切に守りながら、新しい農業のスタイルを追い求めています。



▲未来の三余農園6代目(左)と丸高農園5代目

この町にしかないのに埋もれてしまっていた産物、「栄久ぼんかん」。この冬、手に取って、じつくりと味わってみてはいかがでしょうか。

# 農業委員会からのお知らせ

○農地を農地以外の目的で使用する場合、農地を貸借して耕作する場合は、手続きが必要です。

農地を農地以外（住宅や倉庫、駐車場、資材置き場等）にする場合は、町農業委員会に申請をして、農地法に基づく県知事の許可を受けなければなりません。

また、農地を貸借して耕作する場合は、農地法等に基づき手続きが必要です。手続きをしていないと、農業をやっていることが明らかでないため、災害時等に補助が受けられないことがあります。詳しくは、町農業委員会へお問い合わせください。

○所有する農地の草刈り（保安全管理）を心掛けてください。

町内には、耕作されていない農地がありますが、草刈りがしつかり行われていないと、道を塞ぐ、病害虫の発生源や鳥獣のすみかになる、ゴミが捨てやすくなる、種がこぼれる等、近隣の人たちに迷惑をかけてしまうこととなります。定期的に所有する農地の状況を確認し、対応をお願いいたします。所有者本人での対応が難しい場合、シルバー人材センター等に依頼することもできます。



## 【問合せ】

産業建設課（42）3965

# My Town Topics ～まちのできごと～



## 幼稚園で遊ぼう！

10月23日、未就園児の親子を対象に、園での日常を見学してもらうため「幼稚園で遊ぼう！」を開催しました。35家族が参加し、園児との交流を図りました。



## 第38回松崎町文化協会芸術祭

11月9日から11日まで、環境改善センターで松崎町文化協会主催「芸術祭」が開催されました。11部門約240点が展示され、多くの方が鑑賞に訪れました。



## 棚田フェス

11月10日、石部棚田特設ステージで「棚田フェス」が開催されました。稲刈り後の景色を眺めながら、町内外で活躍するグループの演奏等を楽しみました。



## 姉妹都市帯広市から季節の贈り物

11月12日、帯広市から「じゃがいも」200kgが届き、学校給食のメニューに加え味わいました。手に持った子どもたちは、重さや大きさに驚いていました。

町長就任直後、南伊豆・西伊豆地域公共交通活性化協議会を中心に交通事業者との交渉、トイレ休憩の必要性や既存の路線バス運行との調整をし、当初想定していた直通とは異なる、修善寺駅で伊豆箱根交通バスへの乗換という形になりました。実証運行を4月に開始し現在に至りますが、乗車実績は非常に低い結果となっています。

## 町長室からこんにちは ⑫

本件とは別に、非常に好評で順調に運行している町内での買物等の支援タクシーについては、継続してまいります。

松崎町長  
長嶋 精一

議員時代の昨年6月に、順天堂大学医学部附属静岡病院への直通バス運行の署名運動を実施しました。理由としては、①直通バスを望む声が多かったこと、②順天堂大学医学部附属静岡病院に限らず、沼津方面での受診者が非常に多いことが挙げられます。

原因は私の乗車見込み予測の甘さもあったと思いますが、通院者の交通手段は家族や親戚の自家用車使用、あるいは友人同士が交代で乗り合う等の通院方式で、バスを利用しない人が予想以上に多かったことが要因とされます。この実証実験は、10月31日で終了となりました。今後については、

## 順天堂大学医学部附属静岡病院への

## 直通バスについて



# 人との出会いを励みにー

## 大場 啓史さん(東区)

### キラリ、輝き人 No.47



▲厚生労働大臣賞を受賞した彫刻作品を持つ大場さん

大場さんは、第31回全国健康福祉祭とやま大会「ねんりんピック富山2018」の美術展彫刻部門で金賞を受賞しました。これまでも6回の入賞経歴があり、平成23年と平成28年には、最高賞である厚生労働大臣賞も受賞しています。

大場さんは、第31回全国健康福祉祭とやま大会「ねんりんピック富山2018」の美術展彫刻部門で金賞を受賞しました。これまでも6回の入賞経歴があり、平成23年と平成28年には、最高賞である厚生労働大臣賞も受賞しています。

年ほど前に始めました。作品によって1000キを越える粘土を扱うので、一人でつくるのは難しいです。何年か手伝いをしていくうちに、自分でも何か製作してみたいと思いい、作品をつくるようになりました。その際、『静岡県すこやか長寿祭』を知り出品してみたところ、初出品で静岡県知事賞を受賞し、驚きと喜びを感じました」とのことです。

彫刻の魅力を尋ねると「彫刻は、木の芯棒づくりから始まり、粘土付け、石こうどり、石こうが乾いたら中の粘土を取り出し、薬剤や強化プラスチックを塗る

等、いくつもの工程を経て完成させます。製作には2・3カ月かかりますが、完成したときの喜びが彫刻の魅力だと思います」。

今後について、「健康づくりのためにも、趣味を持ち多くの人と出会うことが必要だと思います。出品を通して、いろいろな方たちと知り合い交流ができています。こうした人との出会いが楽しみで、励まされています。夫婦でお互いに協力し合って作品をつくり、元気に過ごすことができているので、これからも健康に気を付け、出品のために1年に1作品を頑張つてつくっていきたいです」と話してくれました。



▶金賞を受賞した彫刻作品「若い人」

#### Profile

おおば ひろし さん  
静岡市に生まれ、5歳の頃に松崎町へ。以来75年以上を松崎町で過ごしています。平成7年から18年間、民生委員児童委員として活動されました。

## まゆ 最中

### クラウドファンディング

ふるさと納税を活用したクラウドファンディングにより寄付を募り、松崎町の特産品(まゆ最中) 開発を実施します。

ふるさと納税を活用したクラウドファンディングには、松崎町にのみならず、桜葉や石部棚田の黒米の使用も検討しています。

#### 【目的】

松崎町は古くから早場繭の産地として知られ、「伊豆松崎相場」は欧米まで知られるほどでした。その歴史にちなみ、大沢温泉ホテル(旧依田邸)では、「まゆの里」という名でまゆ最中を提供していました。

クラウドファンディングとは、Crowd(群衆)とFunding(資金調達)を合わせた造語です。

ふるさと納税を活用し、寄付金の使い道を具体的にプロジェクト化し、共感した方から寄付を募るものです。

#### 申込方法

・ふるさとチョイス

・銀行振り込み

・現金持参

#### 目標金額

100万円

#### 募集期限

平成30年12月31日まで

※1万円以上の寄付で、完成した商品をお届けします。

#### 【問合せ】

企画観光課(42)3964

【事業主体】  
伊豆・松崎・であい村蔵ら

【開発する「まゆ最中」】  
「まゆ最中」とは、蚕の繭玉でかたどった皮で、あ

町の人口と世帯

(平成30年10月31日現在)  
( )内は前月比

総人口	6,712人	(-3人)
男	3,197人	(-1人)
女	3,515人	(-2人)
世帯数	2,996戸	(-3戸)
転入	11人	転出 7人
出生	2人	死亡 9人

(10月届出分)  
戸籍だより



おめでとうございます(出生)

地区	名前	性別	保護者
岩地	み心結	女	斎藤匡紀
江奈2	はる晴磨	男	石田研至

おくやみ申し上げます(死亡)

地区	氏名	年齢	届出人
池代	山本千鶴	94	恵美子
櫻田	山田まゆみ	92	信雄
江奈2	渡邊信子	80	信行
江奈1	久保田ゆき子	100	土屋照雄
八木山	加賀はるゑ	94	吉彦
山口	佐藤朝子	82	平川美恵
石部	高橋徳良	64	節子

※この欄に掲載を希望されない場合は、お申し出ください。

町の交通事故

平成30年10月発生分

( )内は前年同月比

人身事故	1件	(+1)
物損事故	13件	(+4)
死者	0人	(±0)
傷者	4人	(+4)

【問合せ】

健康福祉課(42) 3966  
※このコーナーは偶数月に掲載します。



あさひ 朝日くん  
(南区)



けん 健くん  
(南郷)



りひと 理仁くん  
(江奈2)



まお 真央ちゃん  
(西区)



ひいろ ひろちゃん  
(宮内)



あいそら 愛空ちゃん  
(明伏)

ピカピカキッズ



3歳児健診で「虫歯」がなかった  
お子さんを紹介します。

暮らしなんでも相談

日常生活で起こるトラブルや悩みごと、困ったこと(心の悩み、消費生活、住まい、生きがい、介護、法律等)、どこに相談すれば良いか分からないときの相談窓口です。

※相談・取次ぎは原則無料ですが、専門家に相談する場合は別途料金がかかる場合があります。

【相談受付ダイヤル】

ライフサポートセンター東部事務所

055(922)3715 (受付時間: 平日9:00~17:00)

松崎文芸

— 短歌 —

老い夫が(ばあば)とわれを呼ぶときは

その母になりきりて返事する

中村宣子

ほうせん花蟬のぬけがらしかと付け

酷暑つづきの畑の隅に咲く

石田安子

四季をりをりの食を楽しみ花眺め

何が不足ぞ星は煌く

飯野ふさ

台風のつぎつぎ生れて今日の海

不気味に青く静もりてゐる

堀岡洋子

猛暑にも甘き香りを放ちるる

合歓の木かげに寄り添ひてたつ

山本智恵子

広報まつねき

二〇一八年十一月一日発行  
通刊 第六五五号

〒四〇一三六九 静岡県賀茂郡松崎町宮内三〇一ノ一  
☎〇五〇四二一九六四 ㊟〇五〇四二二二一八三

発行 静岡県松崎町 編集 企画観光課  
印刷 (株)山本印刷